

平成26年1月31日

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会 御中

独立行政法人日本スポーツ振興センター

理事長 河野 一郎

平成25年12月24日付けで貴会よりありました公開質問状「新国立競技場の国際デザイン競技に関する回答のお願い」については、下記のとおり回答いたします。

記

Q01. 募集要項は、いつ、どなたが、どのようにきめたのでしょうか？

「新国立競技場基本設計条件（案）」によると、募集要項を検討したのは建築WG（座長：安藤忠雄さん）と記されています。建築WGメンバー全員のお名前と専門分野、WGで果たされた役割をお教えてください。また募集要項をきめたときの議事録を公開してください。議事録がない場合はその理由をご説明の上、各メンバーの発言概要を文書でご回答ください。

◆本センターのお答

新国立競技場の将来構想については、「国立競技場将来構想有識者会議（委員長：元日本国政府ユネスコ代表部特命全権大使 佐藤禎一氏）」を平成24年3月に設置し、将来構想の検討を行うとともに基本構想デザイン案を募ることを目的として「新国立競技場基本構想国際デザイン競技」（以下、デザイン競技という。）を行うことが提案され、日本スポーツ振興センターとして行うことを決定しました。

募集要項については、同有識者会議の下に設置されたスポーツWG（座長：日本サッカー協会名誉会長 小倉純二氏）・文化WG（座長：作曲家 都倉俊一氏）からの要望を、建築WG（座長：建築家 安藤忠雄氏）がとりまとめ、同デザイン競技募集要項の検討を行い、同年7月同有識者会議で了承されました。

なお、施設建築ワーキンググループ委員は次の方々をお願いしております。

安藤忠雄氏（施設建築WG座長）、鈴木博之氏（建築計画・建築史）、岸井隆幸氏（都市計画）、内藤廣氏（建築計画・景観）、安岡正人氏（環境・建築設備）

また、議事概要等については、現在公表に向けた準備を進めているところです。

Q02. なぜ、建物の高さを70mと設定したのでしょうか？

募集要項作成時には、20mの高さ制限があったにもかかわらず、70mとされた根拠をご説明ください。所在地の新宿の都市計画審議会、景観審議会、区議会では、この規制緩和について厳しい指摘

が出されています。(※) これらの指摘について、どのようにお考えでしょうか。なぜ、募集要項作成前に、新宿区都市計画審議会、景観審議会、区議会に意見を求めなかったのでしょうか。

※新宿区都市計画審議会（2013/3/27）

デザインの公募が先で、都市計画の変更が後というのは、問題ではないのか。

※新宿区景観審議会（2013/3/18）

今までの新宿区の努力で高さ制限を頑張ってきたのに、なぜ、一気に 80mまで緩和なのか。景観審議会としていいというわけにはいかない。

◆本センターのお答

新しく整備する競技場では、スポーツ基本計画で謳われている大規模競技大会が開催できる競技場であるとともに、スポーツ利用のない時でも文化的利用を行うことができる大規模集客施設であること、また、神宮外苑という地域性への配慮と環境性能にも優れた、世界に誇れるスポーツ・文化の拠点となることが求められたところです。

平成 24 年 7 月に開催した国立競技場将来構想有識者会議（第 2 回）において 8 万人規模の観覧席を整備することなどとりまとめられた新競技場に求められる要件（目指すスタジアムの姿）は以下のとおりで、この要件を満たすため、建設に必要と考えられる敷地として約 113,000 m²、建物の高さは 70m 程度の規模を想定したところです。

○大規模な国際競技大会の開催が実現できるスタジアム

- ・国家プロジェクトとして、世界に誇れ、世界が憧れる次世代型スタジアムを目指す
- ・アスリートやアーティストのベストパフォーマンスを引き出す高性能なスタジアムを目指す

○観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム

- ・世界水準のホスピタリティ機能を備えたスタジアムを目指す
- ・開閉式の屋根や、ラグビー、サッカー及び陸上いずれの競技の開催においても、競技者と観客に一体感が生まれる観覧席を備えた、快適で臨場感あふれるスタジアムを目指す

○年間を通してにぎわいのあるスタジアム

- ・コンサート等の文化的利活用を楽しめる工夫が施され、特に音響に配慮された多機能型スタジアムを目指す
- ・各種大会や文化利活用がない時でも気軽に楽しめる商業・文化等の機能を備えたスタジアムを目指す

○人と環境にやさしいスタジアム

- ・最先端の環境技術を備え、緑あふれる周辺環境と調和するスタジアムを目指す
- ・震災等の災害発生時にも安全で、避難・救援等に貢献できるスタジアムを目指す
- ・スタジアム内外及び周辺駅からのバリアフリーに配慮されたスタジアムを目指す

なお、国際デザインコンクール応募作品の審査の結果、平成 24 年 11 月 15 日にザハ氏のデザイン案を最優秀作品として決定し、このデザイン案を基に都市計画法（昭和四十三年六月十五日法律第百号）はじめ関係法令等に従い、都市計画企画提案等所要の手続を行い、平成 25 年 6 月 17 日に都市計画決定されたところです。

Q03. なぜ、敷地を現国立競技場の1.5倍以上の113,000㎡に拡大したのでしょうか？

現在の国立競技場のみならず、隣接する明治公園、日本青年館、都営霞ヶ丘アパート敷地と、その間を通る道路まで廃止する計画ですが、どなたがどのような検討をした結果、この方針がきめられたのでしょうか？

◆本センターのお答

Q02. の回答のとおりです。

Q04. なぜ、予算が1,300億円なのでしょうか？

予算設定の際、参考にされたという日産スタジアムが約600億円、またロンドン五輪のメインスタジアムは約800億円（4億8,600英ポンド）です。また、要望書への回答では、日本スポーツ振興センターは、2011年度に現在の国立競技場の耐震改修基本計画を実施され、777億円の試算が出たことを教えてくださいました。そして、この試算をもとに改修は「建替えに近い700億円かかることが判明し、建替えを決断した」と報道されています。（『日本経済新聞』2012/7/27）。これらを考え合わせると、なぜ、参考額の600-800億円をはるかに超える1,300億円を予算として設定されたのでしょうか？その根拠をお教えてください。

◆本センターのお答

新国立競技場の総工費は、日産スタジアム等の工事費を参考としておりますが、新国立競技場は、球技・陸上などの国際大会の開催を可能とし、スポーツ・文化の拠点ともなるよう、日産スタジアムとは異なる条件の下で試算したものです。

試算の内訳については、別添の資料をご覧ください。

Q05. 防災、交通、避難計画、環境への影響を検討されましたか？

今回のように大規模な計画の場合、募集要項作成時に都市的スケールの検討が必要不可欠です。巨大な建物により空地が失われますので、地域の防災計画について、またイベント時の80,000人の観客と車の誘導と処理、緊急時の避難計画、さらにはビル風やヒートアイランド現象など周辺に与える影響についての検討が必要です。こうした都市的な課題を各分野の専門家にお訊きになりましたか？お訊きになった場合は、どなたがどのような検討をされたのか、お教えてください。

◆本センターのお答

新国立競技場の建設計画は、現在の国立霞ヶ丘競技場の改築を前提として実施しておりますが、当初の検討からスタジアムの施設建築敷地だけでは、防災、交通、避難計画上の課題があると認識しており、このため、周辺駅からのアクセスや周辺の関連敷地と一体となったバリアフリールート、人溜り空間の提案を行っています。

Q1. の回答に記載するとおり、すでに防災等の課題については募集要項作成の段階から施設建築WGの委員のご意見等を踏まえて盛り込んでおり、詳細な検討については設計作業を通じて行うこととしています。

Q06. なぜ、募集要項で、敷地の特徴である風致地区や歴史性について説明されていないのでしょうか？なぜ、現在の国立競技場の説明と図面が紹介されていないのでしょうか？

◆本センターのお答

Q2. の回答に記載するとおり、募集要項においては「緑あふれる周辺環境と調和するスタジアムを目指す」ことを新競技場に求められる要件（目指すスタジアムの姿）として示しています。このような条件を設定することにより、新しい競技場が置かれる敷地の状況を踏まえた新国立競技場の基本構想デザインを求めています。

また、現在の国立競技場の図面については、募集要項の質疑応答の際の追加資料として提示しております。

さらに、航空写真や周辺の現況写真など、参考資料として提示しております。

Q07. なぜ、収容人員を 80,000 人とし、全席常設にしたのでしょうか？

国際オリンピック委員会が定める陸上競技場の基準は 60,000 人です。またロンドン五輪のメインスタジアムでは、80,000 人のうち 3 分の 2 以上の 55,000 人分が仮設席でした。8 万人の席をすべて常設でつくらなくてはならない必然性をお教えてください。

◆本センターのお答

新国立競技場は 50 年、100 年使用する計画であり、サッカー日本代表戦や、コンサートなど、8 万人規模のイベントも行う予定です。また、FIFA ワールドカップサッカーや世界陸上などの国際競技大会を誘致することも想定しており、イベントの都度、仮設席を設置・解体することは経済的側面から合理的ではないと考えております。

なお、ロンドンオリンピックスタジアムの整備計画は、観客席の下層部に 25,000 席を恒久的な席、上層部に 5 万 5 千席の仮設席を整備して、オリンピック・パラリンピックを開催し、終了後は、仮設席 5 万 5 千席を撤去して売却する計画だったと聞いています。その後、サッカーイングランドプレミアリーグ所属チームであるウェストハムのホームスタジアムとして 60,000 人規模のスタジアムに再整備されるとの報道があったところです。

これは、ロンドン市内にウェンブリー・スタジアム（9 万人収容）、トゥイッケナム・スタジアム（8.2 万人収容）のように、8 万人規模のスタジアムが存在しているため、このような整備計画が策定されたものと考えており、8 万人規模のスタジアムは存在していない日本とは事情が異なると考えています。

Q08. なぜ、開閉式の屋根が必要なのでしょうか？

可動式の屋根をつけると建設費に加え、保守点検費、空調や照明の設備費・運転費が莫大になります。さらに大地震などの自然災害で屋根が落下する危険性があり、避難場所としての機能を失います。積雪時や強風時には屋根は開けてイベントを中止するそうですが、そうであれば、そもそも屋根をかける必要性があるのでしょうか？屋根をかけることでコンサート等の文化イベントにより、

年間 10 億円の収益が上がる想定されていますが、上記の建築費や維持費、リスクを考え合わせるととても見合うものとは考えられません。これらのことを募集要項作成のときに検討されましたか？可動式屋根をつけなくてはならない必然性をお教えてください。

◆本センターのお答

国内外のスタジアムでは、限られたスポーツイベント以外の利用を積極的に取り入れ、収入を上げるように取り組んでおり、特にホームチームを有しないスタジアムにおいて、利用率を高め収益を上げるために、コンサートなどスポーツ以外の利用を積極的に実施しています。

ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピック競技大会などのスポーツイベントだけでなく、コンサートなどの文化的なイベント利用を考慮した場合には、天候に係わらず安定的に開催し増収を図る観点からも、屋根の一部が稼働する開閉式屋根の設置は必要と考えています。

また、コンサート等のイベント時の競技場内の音響性能や、周辺地域への音漏れに対する配慮としても有効と考えています。

このようなことを踏まえ、政府部内で検討いただいた結果、その必要性から、開閉式屋根の設置が認められたものと考えています。

Q09. 審査委員会のメンバーは、どなたが決められたのでしょうか？

なぜ、審査委員会に、都市計画、防災、交通、環境の専門家が入っていないのでしょうか？

◆本センターのお答

「新国立競技場基本構想国際デザイン競技」の審査委員は、その主催者である独立行政法人日本スポーツ振興センターにおいて委嘱しています。

審査委員会委員は、次の方々をお願いしています。

一次審査においては、施設建築に係る有識者として安藤忠雄氏（委員長）、鈴木博之氏（建築計画・建築史）、岸井隆幸氏（都市計画）、内藤廣氏（建築計画・景観）、安岡正人氏（環境・建築設備）に、スポーツ利用に係る有識者として小倉純二氏に、文化利用に係る有識者として都倉俊一氏に、そして主催者として本センター理事長河野一郎で構成し、二次審査においては、一次審査に携わっていただいた方々に加え、外国の著名な建築家として、ノーマン・フォスター氏とリチャード・ロジャース氏をお願いいたしました。また、併せて専門アドバイザーを和田章氏（建築構造）をお願いしたところです。

Q10. なぜ、リチャード・ロジャース氏とノーマン・フォスター氏の不参加を事前に知っていたにもかかわらず彼らに審査をお願いしたのでしょうか？

お2人には、どのような段階でどなたがどのように応募作品を説明し、彼らからはどのような講評を得たのでしょうか？そしてそれは、審査にどのように反映されたのでしょうか？お2人の投票内容もお教えてください。

◆本センターのお答

外国人審査委員としてお願いしたリチャード・ロジャース氏、ノーマン・フォスター氏の審査委

員会への出席については、日程調整等に努めましたが、結果として、ご出席がかないませんでした。両氏には、二次審査に入る前、一次審査で選ばれた作品をご説明し、各作品の評価や投票をしていただき、その内容も含め二次審査で審査したところです。

なお、本年度内に国際デザインコンクールの報告書を作成する予定ですので、審査概要についてはこちらをご覧くださいと思います。

Q11. 各審査委員は、審査でどのような発言をされたのでしょうか？

発言者と発言内容、投票結果がわかる議事録を公開してください。議事録がない場合は、その理由をご説明の上、自民党に提出された審査経過報告書を公開してください。建物の規模、建設費と維持費、周辺環境との調和や歴史の連続性について、どなたがどのような発言をされたのか、お教えください。

◆本センターのお答

Q10. でお答えしたとおり、本年度内に国際デザインコンクールの報告書を作成する予定ですので、審査概要についてはこちらをご覧くださいと思います。

Q12. なぜ、ザハ・ハディド氏の案が最優秀賞になったのでしょうか？

ザハ・ハディド氏の案は、当初から敷地を大きくはみ出していたので、そもそも募集要項を満たしていません。また、予算をはるかに越えることは建築の専門家であれば、容易に予測が付きまします。それにもかかわらず、なぜ、安藤忠雄さんは、ザハ・ハディド氏の案を選んだのでしょうか？その理由をお教えください。

◆本センターのお答

本センターホームページに掲載されているデザインコンクール審査講評をご覧ください。

Q13. 日本スポーツ振興センターは、審査委員とどのような契約を結んだのでしょうか？

欠席した英国のお2人をふくめ、各審査委員との契約内容をお教えください。契約期間と報酬金額をお示しください。

◆本センターのお答

デザインコンクール審査委員は、「新国立競技場基本構想国際デザイン競技審査委員会設置要綱」第2条に規定する審議事項等の審議のため委嘱しています。

なお、審議事項等は次のとおりです。

(抄)

(審議事項等)

第2条 審査委員会においては、次に掲げる事項を審議する。

- (1) デザイン競技の募集要項に関すること。
- (2) デザイン競技の応募作品の審査に関すること。
- (3) その他デザイン競技に必要な事項に関すること。

2 前項に規定する審議事項のほか、新国立競技場基本構想デザイン競技募集要項 20（デザイン監修、設計及び工事との関連）に規定するデザイン監修について、必要な助言を行うことができる。

また、本審査委員会委員の委嘱報酬については、文部科学省の基準に倣い設定しております。

（参考）

委員長

会議出席謝金 23,000 円/1 回

委員

会議出席謝金 19,900 円/1 回

審査謝金 4,300 円/1 時間

なお、委嘱期間は、「平成 24 年 9 月 26 日から新国立競技場の竣工まで」としています。

Q14. 現在の縮小案は、当選案とはまったく異なるものになっています。ここまで大幅に変わってしまったら、審査で選んだ当選案がそもそもおかしかったということになりませんか？審査そのものをやり直したほうがいいという声が多く上がっていますが、お考えをお示してください。

◆本センターのお答

平成 24 年 11 月 15 日、「国立競技場将来構想有識者会議（第 3 回）」においてザハ・ハディド・アーキテクツの作品を最優秀作品として決定し、基本設計を行う前段階としてザハ・ハディド・アーキテクツのデザイン監修のもとにフレームワーク設計を進めてきたところです。

Q15. 縮小案の作成は、日建設計を中心とする日本側の設計チームによって行われたはずですが、ザハ・ハディド氏との調整は、どなたがどのように行ったのでしょうか？

◆本センターのお答

縮小案の作成は、フレームワーク設計の中で、ザハ・ハディド・アーキテクツのデザイン監修のもとに日建設計・梓設計・日本設計・アラップジャパンの 4 社 JV により行われています。

Q16. 現在の縮小案を実行し、1,852 億円以上かかった場合、どなたが超過分の費用を負担するのでしょうか？また、その責任はどなたが取られるのでしょうか？

縮小案では、延床面積が約 75%に縮小され、建設費は 3,000 億円の約 60%の 1,852 億円になったと発表されましたが、この縮小率の違いからも明らかなように、1,852 億円ではとても納まらないと予測する専門家が多くいます。

◆本センターのお答

国立競技場改築に係る経費については、国費のほかスポーツ振興くじ（toto）の売り上げの一部を充てることを考えています。さらに、国と東京都においては、当該経費の負担等について協議中と聞いております。本センターとしては、昨今の建設物価高騰への対応、工期厳守対策、オリンピック・パラリンピック競技大会開催への対応を考慮しつつも、政府の方針に沿い、今後も可能な限

り建設コスト縮減に努めることとしています。

Q17. 日本スポーツ振興センターは、ザハ・ハディド氏とどのような契約を結んでいるのでしょうか？自民党に提出された契約書を公開してください。ザハ・ハディド氏には13億円支払われるそうですが、これはどのような名目のお金なのでしょうか？デザインを変更した場合の許諾費用とザハ・ハディドを採用しなかった場合の違約金額、契約期間をお教えてください。

◆本センターのお答

ザハ・ハディド・アーキテクツとは「新国立競技場フレームワーク設計に関するデザイン監修業務」の契約を締結し、フレームワーク設計監修業務終了後は、基本設計デザイン監修業務の契約を締結しています。従いまして、ザハ・ハディド・アーキテクツに支払うものは当該業務の対価となります。

なお、契約期間につきましては、それぞれの業務が終了するまでとなりますが、違約金額等契約内容については公表しておりません。

Q18. 安藤忠雄さんは、デザイン競技開催にあたり、下記メッセージを公開されています。「プロセスには、市民誰もが参加できるようにしたい。専門家と一緒にみんなで作ってあげていく。『建物』ではなく『コミュニケーション』。新国立競技場の計画のプロセスに市民が参加できて、民意を反映できるのなら、素晴らしいことです。ぜひ、その具体的な参加方法をお教えてください。私たちもできるかぎりのご協力をするを、お約束します。

◆本センターのお答

日本スポーツ振興センターでは、「新国立競技場基本構想国際デザイン競技」においては、広く国民の皆様にお知らせさせていただいております。これまでも、関係各方面からのご意見を踏まえて基本設計条件をまとめさせていただきました。

現在、国立競技場改築事業は基本設計に着手したところで、今後、国立競技場解体、新国立競技場建設というプロセスを経ていくこととなりますが、この過程においては、東京都とも連携しつつ、広く関係者の意見が反映されるよう様々な取組みを進めていくよう努めることとしています。具体的には、地元関係者への説明会やご意見を持っている方々に対するきめ細やかな説明など、今後とも国民の皆様への情報発信に努めていきたいと考えています。